

小中一貫した教育だより

R7.3.10

小中合同研修会 ～東栄中学校区小中一貫した教育 1月15日(水)

東栄中学校を会場に、「小中合同研修会」が行われました。当日は、80人を超える参加者がありました。

今年度は「札教研春の研究集会」の際に授業検討・分科会を行っており、2度目の合同研修会となりました。

体育館で8つの分科会に分かれて、情報の共有、意見交流が交わされました。協働テーマ「つながり」をもとに、小中の垣根を越えて活発な話し合いとなりました。各学校の実態や抱える課題から、9年間の学びや成長について、一緒になって考える有意義な研修となりました。

それぞれの部会で交流した内容を紹介します。



【学習ルール】

- ・時間を守るための指導、子どもの持ち物について交流を進めてきた。特にノートの書き方の指導をどの学校も大切にしている。
- ・身に付けるべき ICT の力が明確になっているか各校の現状の取組を共有した。
- ・実現性を考えると、分科会形式ではなく1つのテーマを1年間みんなで話し合う形にしたらどうか。



【ICT】

- ・各学校で Chromebook を使った宿題の有無や、家庭への「持ち帰り」状況について交流した。
- ・個々の Chromebook の使用頻度、スキル習得の差が課題として挙がっている。また、特に低学年のうちは「えんぴつで文字を書く、直接人と話す」指導が大事であるという意見もあった。
- ・教員を対象に校内で講習会を行ったり、「Chromebook を使う課題」を全員に出したりするなど、ICT 活用の幅を広げるための各校の工夫を交流した。
- ・参観日で行った「インターネットモラル」の授業実践が紹介された。次回の部会では「家庭への啓発」をどう進めていくかを話題としたい。

【中学入学までに身に付けさせたい力】

- ・中学の先生からは、話を聞く力を身に付けてほしいことや、ローマ字が書けること、小学校で学ぶ英単語の確実な習得が必要であるという話があった。
- ・こうした小中合同の研修会、学校見学等で教職員間のつながりを今後も大切にしていくことが大切。そのことで、小中引継もより円滑に進むのではないかな。



【不登校】

- ・不登校に関して、各校のサポート体制や、未然に防ぐための対策について話題になった。
- ・不登校の理由は様々である。また、いくつかのパターンも見られる。学業不振だけでなく、人との関わり、複合的なパターンもある。
- ・学校と保護者が意思疎通を図って、同じ思いで子どもの支援にあたりたい。
- ・各担任が工夫して対応にあたっている。今後も学校組織として対応したり、SSW、SC等の外部協力を有効活用したりしていく。

【生徒会・児童会】

- ・今年度は、東栄中学生徒会が中心となり Google Classroom を使ってパートナー校の子どもたち同士の交流を行った。
- ・各学校の生徒会・児童会の取組を交流し、共通のものや各学校独自の行事内容を確認した。
- ・東栄中学校で行われる行事の様子を ICT でパートナー校の児童が閲覧できるようにする。中学校の実態を知ることができ、活動が円滑につながることを期待できる。



【生徒指導】



- ・各校の校外のルールについて交流した。公園での他校間トラブル、SNSトラブル等の事例が出された。
- ・進学時の引継は大切である。中学校では多くの子が成長している。中学1年生では、言葉づかいとあいさつがしっかりとできると、先生方と良い関係がつかれている。学年によって子どもの様子も違うので、集団に合わせた指導をしている。

【体力向上・食育・保健】

- ・各校の保健指導、性教育の取組やシャボテンログの様子から、実態や課題を交流した。
- ・各学校の「体力向上」に向けての取組状況を交流した。今後「大谷グローブ」を貸し借りすることで活用の幅が広がるのではないかな。
- ・中学校では、ラジオ体操後に心拍数を図ることで自分の体の状態を知るという取組を行っている。体育的行事や部活動を通した生徒の育ちも見られる。



【特別支援教育】

- ・各校の実態や課題について交流を深めることができた。
- ・中学生の進路について話題になった。子ども自身が将来像を描けるように教師の声掛けや関わりを大切にしている。

